

1 単元名 武道（剣道）

2 単元の目標

- (1) 武道に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようになる。 【関心・意欲・態度】
- (2) 課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようになる。 【思考・判断】
- (3) 相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を展開することができるようになる。 【技能】
- (4) 武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方を正しく理解できるようにする。 【知識・理解】

3 基盤

(1) 教材観

武道は、武技、武術などから発生した我が国固有の文化であり、基本動作や基本となる技を身に付け、相手の動きに応じて、相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、武道に積極的に取り組むことを通して、武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合をすることを重視する運動である。武道は、中学校で初めて学習する内容であるため、まず基本動作と基本となる技を確実に身に付ける必要がある。その上で相手の動きの変化に対応した攻防ができるようになることが求められる。また、自由練習やごく簡単な試合で攻防を展開する際、技能の上達に応じて、基本となる技を用いたものから得意技を身に付け、活用するものへと発展させていくことをねらいとしている。したがって、第1学年及び第2学年を通して、技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本となる技ができるようになる。また、武道の学習に積極的に取り組み、伝統的な行動の仕方を重んじ、健康や安全に気を配るとともに、礼に代表される伝統的な考え方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようになることが大切である。

(2) 生徒観 ～省略～

(3) 指導観

剣道は礼を重んじるスポーツであり、メリハリのある行動をとることが難しい生徒の実態を踏まえ、規律正しい行動と礼法を徹底して指導する。また、剣道の理念や基本動作及び技の習得を段階的に行うことにより、達成感を味わわせ、「辛そう」「痛そう」という剣道のイメージを変えていきたい。技能面では、剣道の基本として、まず、歩み足、送り足、踏み込み足を身につけさせることが必要であると考え。しかし、動き自体は単調であるので、リレーやゲーム的な要素を加えて活動意欲を高め、積極的に取り組ませることで技能の習得に結びつけたい。基本動作に関しては、2人組での学習に

において、相手の動きに応じた動きということを意識した動きをさせる。また、基本動作の判定試合を行うことにより、剣道への関心を高め、技能の習得につなげたい。さらに、剣道未経験者の生徒がほとんどである実態を踏まえ、ペア学習を導入し、お互いに教え合うことで、意欲の向上を図る。その際、打つ、打たれるの関係があることを理解させ、打たれた時の痛さを体験しながら、相手があってこそその競技であることも理解させたい。そして、打たれた場合は、「相手が自分に隙があるところを教えてくれたのだ」というような捉え方ができるようにし、相手を尊重する姿勢を育てたい。また、「難しい」等の剣道に対するマイナスのイメージを払拭するために、練習内容を段階的に行い、スモールステップを積み重ねるような工夫をしていきたい。もちろん楽しい部分だけではなく、寒い中、裸足になる、正座をするなど礼儀作法や剣道の特性も伝えていきたい。そして、本単元の学習が2年次の目標である基本となる動作や技の習得、伝統的な行動の仕方や考え方の理解につながるよう指導していく。

4 単元の評価規準 ●：第2学年の評価規準 ○第1学年の評価規準

| ①運動への 関心・意欲・態度 | ②運動についての 思考・判断 | ③運動の技能 | ④運動についての 知識・理解 |
|--|---|---|--|
| <p>○剣道の学習に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>○相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。</p> <p>●自己の役割を果たそうとしている。</p> <p>●互いに助け合い教えあおうとしている。</p> <p>○健康・安全を確保している。</p> | <p>●自己の技能・体力の程度に応じた得意技を見付けている。</p> <p>○提供された攻防の仕方から、自己に適した攻防の仕方を選んでいる。</p> <p>○運動の行い方やポイントを見つけている。</p> <p>○健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選んでいる。</p> <p>●武道を継続して楽しむための自己の適した関わり方を見付けている。</p> | <p>○体さばきでは、相手の動きに応じて歩み足や送り足をする事。</p> <p>○基本打突の仕方と受け方では、中段の構えから体さばきを使って、面や胴（右）や小手（右）の部位を打ったり受けたりすること。</p> <p>●最初の小手打ちに相手に対応して隙ができたとき、面を打つこと。（小手一面）</p> <p>●最初の面打ちに相手に対応して隙ができたとき 胴を打つこと。（面一胴）</p> <p>●相手と接近した状態にあるとき、隙ができた面を退きながら打つこと。（引き面）</p> <p>●相手と接近した状態にあるとき、隙ができた胴を退き</p> | <p>○武道の伝統的な考え方について、理解したことを言ったり書きたしたりしている。</p> <p>○技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げてている。</p> <p>●運動観察の方法について、理解したことを言ったり書きたしたりしている。</p> <p>●試合の行い方について、学習した具体例を挙げてている。</p> |

| | | | |
|--|--|---|--|
| | | ながら打つこと。 (引き胴) ○相手が面を打つとき、体をかかわして胴を打つこと。 (面抜き胴) ●相手が小手を打つとき、体をかかわして面を打つこと。 (小手抜き面) | |
|--|--|---|--|

5 指導計画と評価計画（全10時間：本時6／10）

(1) 指導と評価計画

| 時間 | 学習のねらい | おもな学習活動 | 評価規準（評価方法） |
|----|---------------------------------------|------------------------------------|---|
| 1 | ○ルールや打突部位の名称、技を理解する。 ○剣道のイメージをつかむ。 | ○オリエンテーション ・歴史や特性について ・VTR学習 | ○武道の伝統的な考え方について、理解したことを言ったり書きだしたりしている。【知・理】 |
| 2 | ○相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を理解する。 | ○礼法 ・正座、黙想、座礼 ・竹刀の仕組み | ○相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。【関・意・態】 |
| 3 | ○構え、足さばきを身につける。 | ○構え ・中段の構え ○足さばき ・歩み足、送り足 | ○剣道の学習に積極的に取り組もうとしている。【関・意・態】 |
| 4 | ○基本的な竹刀さばきを身につける。 | ○素振り ・正面素振り ・左右面素振り ・一足跳び | ○健康・安全を確保している。【関・意・態】 |
| 5 | ○空間打突を身につける。 | ○しかけ技（一本打ち） ・面、小手、胴 ・発声を行う | ○体さばきでは、相手の動きに応じて歩み足や送り足をする。【技】 |
| 6 | ○気剣体一致の打突を身につける。 | ○面打ち ・上半身の使い方 ・下半身の使い方 | ○運動の行い方のポイントを見つけている。【思・判】 |

| | | | |
|----|----------------------|--|--|
| 7 | ○打突の仕方、受け方を身につける。 | ○面、胴、小手の打ち方、受け方 ・面をつけない状態で ・面をつけた状態で | ○基本打突の仕方と受け方では、中段の構えから体さばきを使って、面や胴（右）や小手（右）の部位を打ったり受けたりすること。【技】 |
| 8 | ○簡単な判定試合を行う。 | ○面、胴、小手 ・打ち方、受け方の判定試合 ※グループをつくり、試合をする人、判定する人など役割分担をする。 | ○健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選んでいる。【思・判】 ○技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。【知・理】 |
| 9 | ○応じ技を身につける。 | ○面抜き胴を行う ・面を打つ人、胴を打つ人と役割を分けて行う ・判定試合を行う ※規準を明確にして | ○相手が面を打つとき、体をかわして胴を打つこと。（面抜き胴）【技】 |
| 10 | ○習得した技能を簡易試合で力を発揮する。 | ○簡単ルールを決め、試合を行う ・危険な技等がないように配慮する | ○提供された攻防の仕方から、自己に適した攻防の仕方を選んでいる。【思・判】 ○基本打突の仕方と受け方では、中段の構えから体さばきを使って、面や胴（右）や小手（右）の部位を打ったり受けたりすること。【技】 |

(2) 指導内容及び「学習活動に即した評価規準（第1学年 武道：剣道）

| 運動への 関心・意欲態度 | 運動についての 思考・判断 | 運動の技能 | 運動についての 知識・理解 |
|---|--|---|---|
| <p>【指導内容】</p> <p>技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本となる技ができるようにすることに積極的に取り組むこと。</p> <p>↓</p> <p>【評価規準】</p> <p>①武道の学習に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>【指導内容】</p> <p>相手と直接的に攻防するという特徴があるので、相手を尊重し合うための独自の作法、所作を守ることに取り組もうとすること。</p> <p>↓</p> <p>【評価規準】</p> <p>②相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。</p> <p>【指導内容】</p> <p>体調の変化などに気を配ること、危険な動作や禁じ技を用いないこと、用具や練習及び試合の場所などの自己や仲間の安全に留意すること。</p> <p>↓</p> <p>【評価規準】</p> <p>③健康・安全を確保している。</p> | <p>【指導内容】</p> <p>課題に応じた練習方法を選ぶこと。</p> <p>↓</p> <p>【評価規準】</p> <p>①提供された攻防の仕方から、自己に適した攻防の仕方を選んでいる。</p> <p>【指導内容】</p> <p>仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けること。</p> <p>↓</p> <p>【評価規準】</p> <p>②運動の行い方のポイントを見つけている。</p> <p>【指導内容】</p> <p>自分の体調に気づき、適切な練習方法を選ぶこと。</p> <p>↓</p> <p>【評価規準】</p> <p>③健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選んでいる。</p> | <p>（指導内容）</p> <p>構えのもととなる自然体、基本となる中段の構え、相手の動きに応じて攻撃や防御の間を保つための足さばきをすること。</p> <p>↓</p> <p>【評価規準】</p> <p>①体さばきでは、相手の動きに応じて歩み足や送り足をすることができる。</p> <p>【指導内容】</p> <p>正面打ちとその受け方、左右面打ちとその受け方、胴（右）打ちとその受け方、小手（右）うちとその受け方をすること。</p> <p>↓</p> <p>【評価規準】</p> <p>②基本打突の仕方と受け方では、中段の構えから体さばきを使って、面や胴（右）や小手（右）の部位を打ったり受けたりすることができる。</p> <p>【指導内容】</p> <p>2人1組の対人で、体さばきを用いて応じ技の基本となる技ができるようにすること。</p> <p>↓</p> <p>【評価規準】</p> <p>③相手が面を打つとき、体をかわして胴を打つことができる。（面抜き胴）</p> | <p>【指導内容】</p> <p>剣道は、単に試合の勝敗を目指すだけでなく、技能の習得などを通して礼法を身に付けるなど人間として望ましい自己形成を重視するといった考え方があること。</p> <p>↓</p> <p>【評価規準】</p> <p>①剣道の伝統的な考え方について、理解したことを言ったり書きだしたりしている。</p> <p>【指導内容】</p> <p>剣道の各種目で用いられる技には名称があり、それぞれの技を身に付けるための技術的なポイントがあること。</p> <p>↓</p> <p>【評価規準】</p> <p>②技の名称や見取り稽古の仕方について、学習した具体例を挙げている。</p> |

(3) 学習過程と評価機会とその方法

| 次 | 第1次 | | 第2次 | | | | | | 第3次 | |
|--------|-----------------------|-----------------------|-----------------------------------|------------------|-------------|---------|-----|------|---------|----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 学習活動 | 10 オリエンテーション・VTR学習 | 5分間走・集合・整列・準備運動・本時の流れ | | | | | | | | |
| | | 20 礼法・所作指導・用具説明 | 30 構え 足さばき 竹刀さばき 空間打突 | 40 面打ち(気剣体一致) | 基本技(面・胴・小手) | 簡単な判定試合 | 応じ技 | 簡易試合 | 本時の振り返り | |
| スキルテスト | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|------|-------|---|----|---|---|---|---|---|---|---|----|
| 評価方法 | 関・意・態 | | ①② | ① | ③ | | | | | | |
| | 思・判 | | | | | | ① | | ③ | ② | |
| | 技能 | | | | ① | ① | | ② | | ③ | ②③ |
| | 知・理 | ① | ② | | | | | | ② | | |

6 本時の学習

- (1) ねらい 運動の行い方のポイントを見つけている。 【思考・判断】
- (2) 準備 竹刀、バレーボール、スリッパ
- (3) 展開

| 過程 | 学習活動 | ○授業者の支援 ☆評価 |
|-----------|--|---|
| 導入 7分 | <ul style="list-style-type: none"> ・集合、整列、挨拶、健康観察 ・準備運動 ・本時の学習内容を知る | <ul style="list-style-type: none"> ○健康状態を観察し、体調の悪い生徒については無理をさせないよう配慮する。 ○本時の流れと課題を知らせ、見通しをもって学習できるようにする。 |
| 展開 38分 | <ul style="list-style-type: none"> ○基本動作 <ul style="list-style-type: none"> ・正面素振り(ペアで) ※一人7回ずつ打ち込んだら、相手にアドバイスを聞く。 | <ul style="list-style-type: none"> ・竹刀の安全確認を行う ・竹刀を立て、柄頭を打たせる ○見方のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・握り方 ・刃筋を通してまっすぐ振らせる ・左手をずらさない |

| | | |
|---|---|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・面打ち（送り足を使って） ※4人組で1人6回ずつ打ち込む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・打つ人、受ける人が前後に送り足を行って実施 ※それ以外の二人は観察（正面・横） ○見方のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・動きが連動しているか ・足の引きつけができていないか ・まっすぐ振り上げ、刃筋が通っているか |
| <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 気剣体一致の打突を身につける </div> | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ○踏み込み足を入れ、正面打ち ※4人組で実施 一人4回ずつ打ち込む 上半身：（腕・竹刀） 下半身：（腰・足・音の一致） ○課題練習 <ul style="list-style-type: none"> ①上半身の課題 ペアでバレーボール打ち ②下半身の課題 スリッパを履いて正面打ち ○再度、踏み込み足を入れ、正面打ち ※4人組で実施 一人4回ずつ打ち込む | <ul style="list-style-type: none"> ・正面打ちを二人で行い、残り二人が観察をする。（上半身・下半身） ○左手を中心から外さず、刃筋正しく打たせる ○右足の踏み込み足（音）を意識させるためにスリッパを使用する ☆運動のポイントを見つけているか。 ※上半身：左手がずれていないか まっすぐに振られているか 振り上げと振り降ろしが一連の動作か 下半身：打突と踏み込み足（音）があっているか 踏み込み足ができていないか 左足で蹴られているか ○修正ができたかどうか確認をする ・自分の修正ポイントを確認 |
| 終末 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ○本時の振り返り ○次時の内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の修正ポイントを発表する |

(4) 本時の評価

| | 十分満足できると判断される生徒の具体例 | 概ね満足できると判断される生徒の具体例 | 支援を必要とする生徒への指導の手当て |
|-------|-------------------------|---------------------|--------------------|
| 思考・判断 | 運動の行い方や合理的なポイントを見つけている。 | 運動の行い方やポイントを見つけている。 | 学習のねらいから課題を見つけさせる。 |

7 本時の視点

- ・運動のポイントを見つけていたか。
- ・気剣体一致の打ちをするために教材が有効であったか。